



リフト付きのバスを使用した団体旅行も可能

介護と観光を結び 雇用創出

日本トラベルヘルパー協会

ここ最近「介護旅行」や「トラベルヘルパー」

という言葉が注目を集めている。そこでトラベルヘルパーを養成するNPO法人日本トラベルヘルパー協会を訪ね、篠塚恭一理事長

乗員と考えてください。

旅行には時間的・經濟的・体力的な余裕が必要なため、旅行業界の一大マーケットはアクティブシニア世代です。

しかし、その同世代でも

健康に不安を抱え、サポートがないと外出できな

い方々もいます。トラベルヘルパーはそうした

ヘルパー養成を開始した。

まずはトラベルヘルパー

が可能にする介護旅行と

地域包括ケアは30分で

駆けつけられる日常生活

圏域で完結してしまいま

す。そこで30分を越える

日常生活圏域、たとえば

隣町の孫の所に行くあ

るいはさらにその先、故

郷の墓参りに行くとい

うような場合までを民間の

サービスで支えるのがト

ラベルヘルパーです。」

つまり介護保険制度が

カバーできない範囲で

ケアスキルを生かした産

業が介護旅行やトラベル

ヘルパーといふこと。篠

塚理事長は、そうした人

材や仕組の必要性にいち

はやく気付き、代表を務

める㈱S.P.Iで介護旅行

を提案。同時にトラベル

ヘルパー養成を開始した。

ではトラベルヘルパー

が可能にする介護旅行と

はどんなものなのか。

「ご利用にあたって条件

が3つあります。まずご

本人の意思確認。2つめ

は家族や後見人の同意。

そして医師やケアマネー

ジャーなどの許可です。

この3つがあれば、数

時間のお出かけから泊ま

りがけの旅行、1人から

団体まで可能です。トラ

ベルヘルパーはプランニ

ングやガイド、旅行中の

ケアまで、要望に合わせ

て利用できます。」

続いて養成講座ではど

のようなことを学ぶのか。

「トラベルヘルパーに必

要な能力は『全てに備える』こと。トラベルヘルパーは旅行で使う交通機関やホテルと利用者の間に入る通訳のよさな存在。

講座では自宅学習のほかに実習をします。準2級では日帰りのコースを設定。交通機関や人混み、砂利道などを体験します。2級になると、日帰りや2泊3日などの条件を設定して旅行計画を立て実践します。実習を通してプランニング、アセスメントを学びます。

またモチベーションと地域経済の活性化の可能性もあります。そして全国にトラベルヘルパーセンターを設置し、そこを拠点に地域の要介護者の外出支援や情報提供をしていきます。気温や湿度の変化、バリアフリー化され

ています。気温や湿度の変化、バリアフリー化され、外出支援や情報提供をしていきます。すでに首都圏を中心に10か所のセンターができています。」

日本トラベルヘルパー協会では、毎月少人数制の説明会を無料で開催。また現在は3級・準2級

Pで説明会の参加や受講申込み、資料請求等を尋ね付けている。

【協会概要】

NPO法人日本トラベルヘルパー協会

〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1・19

13トップビル並木ビル10階/☎03・6415・6888/協会HP:

<http://www.travelhelper.jp/>

2013.7.31

日本シニアリビング新聞